

研修プランA 2

グループ協議でホワイトボードを活用して疑問を解決する

- 目的 グループ協議を通して生まれた疑問を、ホワイトボードを活用して、授業者と共に解決していくことで、授業改善に資することを目指す授業研究会です。
- 対象 校内（主に高等学校）
- 時間 45分
- 形態 全体→グループ→全体
※グループの分け方：教科ごとに1グループ5～6人、教員数が多い教科は分割
教員数が少ない教科は複数教科合同
- 準備物 ホワイトボード（各グループ1枚・マグネット付きで黒板貼付可能な物が好ましい）
 ホワイトボード用のペン（各グループ1～2本）
※ホワイトボード使用の理由
 - ・ホワイトボードの使用は、議論を可視化できたりするなど、「対話的な学び」の実現においても、教科等における表現力の育成においても、有効な教具の一つと言える。
 - ・本研修において、ホワイトボードを使用することで、授業で使用していない職員についても、その有効性を体験してもらう意味もある。※なお、ホワイトボードがない場合は、模造紙等で代用可能である。

●研修前

○研究授業前

- ・学習指導案に、学校教育目標（育成を目指す資質・能力や生徒像）を基に具体的に考えた、その単元（授業）で育成を目指す資質・能力を明記する
- ・学習指導案に、本時の主となる提案内容（授業後に協議して欲しい内容）を明記する
 - （例1） その単元（授業）で育成を目指す資質・能力を具現している姿とその要因について
 - （例2） 主体的・対話的で深い学びに迫る姿とその要因について
- ・生徒の学びに着目すべく、実施教室の（後方ではなく）側面に、参観者用のスペースを用意する

○授業観察

- ・参観者は、生徒の学びに着目すべく、（後方からではなく）教室の側面から参観し、特に生徒のグループ協議等の場面では、生徒の言葉が聞こえ、活動が見える位置に移動して、観察をする
- ・前項の「本時の主となる提案内容」に関する場面においては、授業者の発問・支援だけではなく、生徒の学びも観察し、メモをとっておく

●研修

流れ	進め方	留意点等
1 研修の説明及び授業者自評 【全体】（4分）	○目的と流れについて説明する。	○目的は上記「■目的」参照 ○流れは左欄「流れ」参照 ○雰囲気作りに関する留意点：授業者が研究授業

		<p>を行って良かったと実感できるよう、進行役も参加者も、研修全体を通し、建設的な意見の交流を心掛ける。</p>
<p>2 協議 【グループ】 (20分)</p>	<p>○各グループで、主に「本時の主となる提案内容」に関して「良かった点」「改善点」「質問」の3項目について協議し、ホワイトボードにまとめる。</p>	<p>○グループの分け方は上記「■形態」参照 ○「本時の主となる提案内容」は上記「●研修前」参照 ○「本時の主となる提案内容」に関し、生徒の姿を基に、協議する。 ○ホワイトボードには、左記3項目に分けて、項目ごとに意見をまとめ記入する。 ○なお、「質問」については、例えば「生徒の学びを見て、疑義が生じた発問や展開の意図」「本時までの取組や生徒の状況」等、授業観察では自明とならず、授業者を含め全体で検討した方がよいと思われる内容を考える。 ○(場合によって)進行役は、次のような点を協議前に提示する。 ・グループ内で進行役、記録者の役割を決める ・1人1回当たりの発言時間を決める等全員が発言できるように留意する</p>
<p>3 全体共有及び質疑 【全体】 (20分)</p>	<p>○各グループ代表が、まとめた内容を発表し、全体で共有する。</p> <p>○「質問」については、授業者が回答したり、全体で対話をしたりして、課題解決や理解促進等に努める。</p> <p>○各グループは、発表終了ごとにホワイトボードを前方黒板に掲示する。</p>	<p>○「良かった点」「改善点」「質問」については、各グループの協議で重点的に取り上げられた事項を中心に発表する。</p> <p>○質問や対話は、参加者全員の授業改善に資するような、建設的な意見の交流となるように促す。また、次の点等に留意し、全体を巻き込む対話を通じた課題解決を心掛ける。 ・各自の実践や経験に結び付けて考えさせる ・一つの質問に対し、似たような質問や意見を全体に促し、参加者の多くが関心を持ち、全体で検討すべき課題を焦点化する。 ・焦点化された課題は、全体で議論し、集合知による解決策を模索する</p> <p>○授業者を含め全参加者は、研修後の省察の材にするために、参考になる点はメモをとる。</p> <p>○進行役は、各グループの発表の共通点や相違点を全体に意識させながら、会を進める。 ○左記の進め方のため、ホワイトボードは、マグネット付き等黒板貼付可能な物がいい。</p>
<p>4 諸連絡 【全体】 (1分)</p>	<p>○今後の取組を説明する。</p>	<p>○各校の実態に応じ、下記「●研修後」を参考に、今後の取組について確認する。</p>

●研修後

○各校の実態に応じ一定の期間を設け、各自で省察する。その際、次の点に留意する。

- ・研究主任等は、定期的に各自が省察し授業改善するために、各自の省察内容は、例えば、各自の手

帳に書き留めたり、各校既存の書類（研修アンケート・自己評価・年間指導計画等）内に位置付け、記入したりするよう促す

- ・省察内容は、例えば「協議を通じて考えが広まった点」「研修を通して熟考し、自身の考えが変容した点」「自身の実践で改善したい点」等、単なる感想にならないように指示や記入様式を工夫する
- ・省察内容を今後に生かすため、次の研修会等で共有したり、今後作成する学習指導案に反映させたりする